

## 『化学物質過敏症は一つの疾患カテゴリーか？』

東海大学大学院医学研究科先端医科学専攻・同医学部生体構造機能学領域

北里大学 北里研究所病院 臨床環境医学センター

坂 部 貢

化学物質過敏症は、通常では影響を受けない極めて微量の化学物質に反応性を有し、多彩な自覚症状を呈する疾患と一般的には定義されている。しかし、医療機関が診療報酬を請求する際の病名として登録されているのにも関わらず、未だ病態生理学的に不明な点が多く、統一された疾患概念もない。その最大の理由として、化学物質の「微量影響」であるが故に、いわゆる中毒の概念（量—反応関係）で病態を説明することが困難であること、同時に個人差要因が極めて強く、患者に一定の傾向を示さないことも理解を困難にさせている。そこで本教育講演では、「化学物質過敏症は一つの疾患カテゴリーか？」と題して、プロス・アンド・コンスの両方の立場からこの疾患について論じてみたい。

1) 化学物質過敏症は、精神疾患であるか、否か？ 2) 化学物質曝露と自覚症状の出現はマッチするか、否か？ 3) アレルギー機序で説明できるか、否か？ 4) 遺伝子解析で差は出るのか、否か？ 等々に焦点を当てて、本症の本質に迫りたい。